

奈良県指定文化財調査票

調査日	2020 年	9 月	18 日	記入者	石井 宏子
調査者名	石井	中西	橋詰		

文化財名	岩船				
種類	<input checked="" type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ()
指定年月日	1976年(昭和51)3月30日				
所在地	橿原市見瀬町				
所有者 管理者	見瀬町共有				
員数					
時代区分	7世紀後半(橿原市HPなど)				
樹木の場合	(樹木名)			(樹齢)	
案内板の状況	あり。(道標・足元マーク、奈良県教育委員会と橿原市教育委員会の説明板がある。)				
公開	見学自由				
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input type="checkbox"/> 良い	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い
	補足 ()				
当面の課題	岩船までは住宅地から5分程度の険しい急坂を歩く。近年、整備が進んでいるようで、上り口付近の階段部分には丈夫な手すりも付けられている。ロープも張られた箇所がいくつか有り、急勾配の場所もあるため、特に雨天時、雨後の見学には注意が必要であることを上り口に説明掲示しても良いかもしれないと思った。				
今後の課題	特にはなし。ただ40年位前までは、岩船付近から遮る物がない眺望があった。今は竹林、竹やぶに囲まれている。雰囲気としてはマッチしているが、巨石の山側の下半分は地面に埋まっていること、岩船のすぐそばまで竹が進出している。一部切って管理しているように思えるが、将来的には対策が必要かもしれないと感じた。				
その他 (由緒など)	貝吹山の東峰、岩船山頂上付近にある花崗岩(角閃石黒雲母石英閃緑岩・飛鳥石)の巨石で、東西約11m、南北約8m、高さ約4.7m。重さは800トンとも言われる。真上から見ると長方形だが、山側の下半部は埋っており、立面形については四角か丸みをもつかは不明。頂部平坦面の中央には幅約1.8mの浅い溝があり、その中に1.4mの間隔をおいて東西に一辺約1.6m、深さ約1.3mの方形の穴が2つ並んで彫られている。				
コメント	飛鳥地方に分布する謎の石造物のうち、最大のもので、(石舞台玄室の天井石が推定70トン)巨石の迫力と不思議な形状・加工痕に驚かされる。用途については、空海揮毫の「大和州益田池碑銘」の台石説、牽牛子塚古墳古墳などの類似からの横口式石槨説、斉明(皇極)天皇陵説、天文台説、「太陽の道」説、祭壇説などいろいろな説がある。上半部は仕上済、東西や北側の下半部には格子状の溝が彫られ、突出部を削り取り平面にする整形加工を行い、膨大な労力を要して長期間に渡って制作されたとみられるが、未完成であること、飛鳥から奈良盆地の宮殿跡、有力者の墳墓が見渡せる立地にあることなど、謎に満ちた石造物でした。				

奈良県指定文化財調査票(写真)

調査日	2020 年	9 月	18 日	記入者	石井 宏子
調査者名	石井	中西	橋詰		

文化財名	岩船
------	----

上り口付近にある案内板と説明板	岩船への道
-----------------	-------



北面(橿原市教育委員会の説明板)	加工途中の下部
------------------	---------



西側より頂部(ほぼ同サイズの方形の穴が二つ)	南面
------------------------	----

